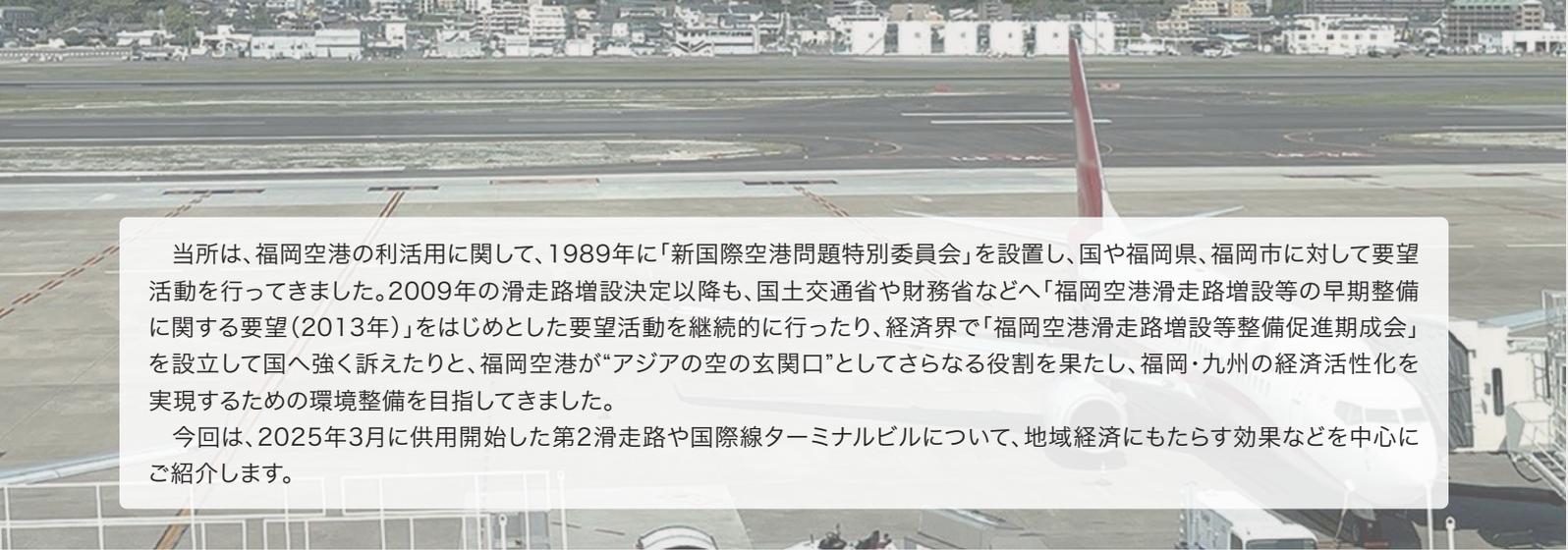




九州のインバウンド拡大拠点として高まる期待 / 第2滑走路供用と国際線ターミナルビル開業で機能強化された福岡空港!



当所は、福岡空港の利活用に関して、1989年に「新国際空港問題特別委員会」を設置し、国や福岡県、福岡市に対して要望活動を行ってきました。2009年の滑走路増設決定以降も、国土交通省や財務省などへ「福岡空港滑走路増設等の早期整備に関する要望(2013年)」をはじめとした要望活動を継続的に行ったり、経済界で「福岡空港滑走路増設等整備促進期成会」を設立して国へ強く訴えたりと、福岡空港が“アジアの空の玄関口”としてさらなる役割を果たし、福岡・九州の経済活性化を実現するための環境整備を目指してきました。

今回は、2025年3月に供用開始した第2滑走路や国際線ターミナルビルについて、地域経済にもたらす効果などを中心にご紹介します。

第2滑走路・2500メートル供用開始 ～混雑の緩和、拠点空港としての魅力拡大へ～

日本一の過密空港

福岡空港は、九州はもとより、アジアの空の玄関口として、拠点空港の役割を担っています。2023年度の発着回数は、東京国際空港(羽田)、成田国際空港に次いで、国内で3番目に多い空港です。

しかし、東京国際空港などと比べると、滑走路が1本しかないことから、“日本一の過密空港”ともいわれ、発着陸の遅れなどの課題に対応するために処理能力の強化が目指されてきました。



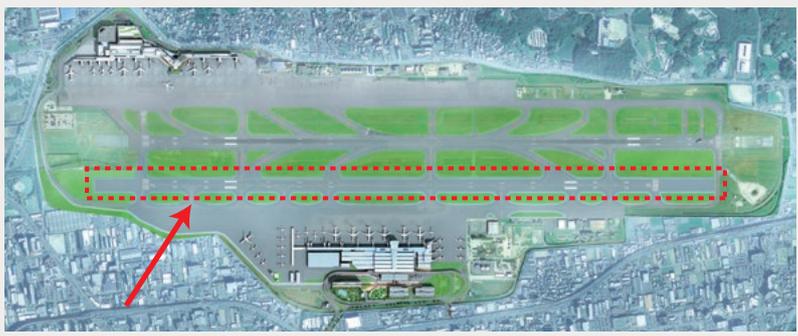
第2滑走路が3月20日に供用開始 ～発着数増加へ～

全長2,500mの第2滑走路は、従来の第1滑走路と平行に国際線ターミナル側に設けられ、通常時は国際線の離陸用として運用されます。

第2滑走路の供用開始によって、発着回数は1時間あたり38回から40回に増加、年間では1万2,000回増の18万8,000回となります。国土交通省は、安定的な運用条件が整えば、将来的には1時間あたり45回の発着を可能としており、混雑緩和に期待が高まっています。

市街地に近い福岡空港では、敷地面積の関係で滑走路間の距離が210mと狭く、2本の滑走路で同時に離発着することは難しいものの、バードストライクなどのトラブルで第1滑走路が閉鎖された場合の補完が可能となり、空港機能がさらに強固になったといえます。

こうした空港機能の向上が、安定的な運営につながり、福岡空港が新たな就航先へ選ばれることになれば、地域経済がさらに活発になります。



▲増設した第2滑走路(出典:福岡国際空港株マスタープラン)

国際線ターミナルビルの増改修で利便性アップ ～福岡を拠点とした九州各地へのインバウンド効果の波及～

➤ 過去最多の旅客数を更新!

福岡空港を運営する福岡国際空港(株)によると、2024年度の旅客数は国内線1,861万人、国際線850万人といずれも過去最多となったことが発表されました。また、発着回数についても、国際線の増便によって過去最多の9万4,706便となり、第2滑走路の供用開始によってさらなるインバウンド需要の増加が予想されています。

➤ 保安検査場等の設備強化によってスムーズな出入国動線に

福岡空港では、第2滑走路の供用開始に合わせて数年にわたる国際線ターミナルの増改修が行われ、今年3月28日にグランドオープンしました。最新機器等の導入による施設整備によって、より快適に出入国できるようになりました。

▶▶ 増改修された施設（一部抜粋）

- 2023年2月 ● 立体駐車場(国際線)のオープン
- 6月 ● カードラウンジのリニューアル
- 7月 ● 有料待合室のリニューアルオープン
- 12月 ● 北側コンコース(搭乗橋)の全面運用開始
- 2024年5月 ● 自動手荷物預入機の導入
- 9月 ● 航空会社ラウンジのリニューアル
- 12月 ● 内際連絡バス専用道路の供用開始
- 到着ロビーの拡張(バスターミナル機能を備えたアクセスホール新設)
- 2025年3月 ● 保安検査場と出国審査場の移設・拡張(保安検査場にスマートレーン設置)
- 新免税店とフードホールのオープン

NEW スマートレーン導入で保安検査の処理能力2倍!

面積が5倍に拡張された保安検査場では、4人同時に検査準備ができるスマートレーンが導入されました。パソコンを取り出さずに検査が可能となり、処理能力が2倍に。さらに、ファーストクラス等の利用者やお手伝いを必要とする利用者が優先的に検査を受けられる「プライオリティレーン」も九州初導入。



▲スマートレーン(提供:福岡国際空港(株))

NEW 手荷物受取コンベア数2倍! 就航先拡大に期待

手荷物受取所コンベアが2025年中に4基から8基に倍増されます。今後、新たな就航先拡大にも期待が高まります。

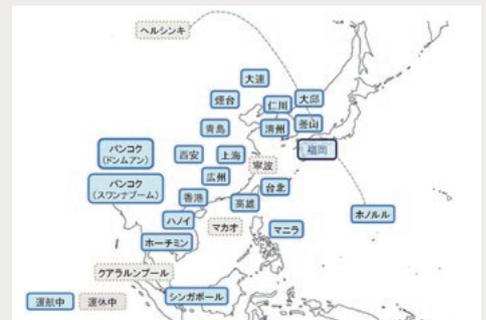


➤ インバウンド需要を取り込み、九州各地の経済効果拡大へ

増改修による福岡空港の利便性向上は、増加傾向にある海外からのインバウンド需要を着実に取り込むことにつながります。

また、国内線と国際線をつなぐ内際連絡バスが専用道化され、移動時間が短縮されたことで、国内線への乗り継ぎや他の交通機関の乗り換えを活用した九州各地への周遊・人流増大が期待されています。

福岡空港の国際線就航状況(2025年4月現在)
(提供:福岡国際空港(株))▶



国内線ターミナルビルと一体となった複合施設が整備スタート ～搭乗者以外も楽しめる新たな“にぎわい拠点”へ～

さらに、商業・ホテル・バスターミナル・空港機能が集約された複合施設の整備が国内線ターミナルでスタートしました。

複合施設は、2024年にオープンした立体駐車場(国内線)に直結するだけでなく、就航先のアジア各国の食文化を体験できる国内最大のアジアフードフロアの設置など、航空機の搭乗者以外も気軽に立ち寄れる仕組みづくりを通して、「エアポートシティ」へと進化していく予定です。

福岡の新たなにぎわい拠点として、期待が高まっています。



▲2027年夏頃に開業予定の複合施設のイメージ
(提供:福岡国際空港(株))



▲アジアフードフロア(出所:株丹青社)